

民間支援まちづくりファンド 活動紹介

事業名 自助グループを形成し地域福祉を共に考える事業

団体概要

- 申請者名 サポぬま
- 代表者 小和田 尚子
- 活動場所 サンウェル沼津、(株)大心産業（沼津市原町中）
- 活動PR <https://saponuma.wordpress.com/>



1. 活動の目的

1. 人々が抱える様々な問題の解決の糸口を見つけるために、自分の経験を他者と共有しながら、自助グループを形成する。カウンセラーや医療に頼らずに問題を抱える者同士で話し合うことで、自分らしい生活を取り戻させ、社会復帰を目指す。
2. 専門家から自助共助、地域福祉コミュニティを学び、課題を抱える地区において、住民が何を問題として抱えているのかを探り、地域福祉の意識醸成を図る。

2. 活動を始めた経緯

【代表小和田さんより】元々は自分の娘が病気になったこともあり、学校に行けなくなってしまったことで、その時に、同じように学校に行けない人、あるいは仕事に行けない人はどうしたら社会復帰できるかを考えました。当事者の家族は誰にも相談できず、実際に自分も一人で悩むことが多くありました。そこで静岡にある自助グループに参加し、同じ境遇にある自助グループとつながることで、社会復帰することができました。

自助グループに参加して気づいたのは、回復に向かうには、医療や薬に頼るのではなく、外部に人とのつながりに作ることで、達成できるということです。そのような経験を経て、当事者同士の自助組織を作っていきたいとの思いに至りました。その後、自立支援の活動をするようになり、原の県営団地にお住まいの方でお悩みを抱えている世帯が多く、原地区を中心に事業を立ち上げるため、この取り組みを始めました。



4. この活動を通じてつながることができた方々

- ◆浜友観光株式会社
浜松市に本社を置き、静岡県及び関東地方・関西地方においてパチンコホール「楽園」グループを展開する日本の企業
知人から未利用の遊休施設の紹介を依頼された際に、ラクーンの8階を使わせていただく機会を得ました。施設の利用に向けて、片付けや清掃をするため、組織化した若者の自助グループに作業を一緒にしてもらい、就労支援の一助となりました。
- ◆立教大学/明治大学 他
サポぬまの活動を通じて、事業を知ってくださった大学教授から、当事者の話を聞いて、現場を見学させていただきたいとの依頼を受けることができました。（例えば一人親の経済活動について研究している教授から、支援している内容を教えて欲しいなど）後に別事業の講演会等で、登壇してもらうつながりもできました。
- ◆沼津市ひとり親会
市内の一人親家庭の方々が集まって語り合い、励ましあって親睦と生活向上を図る会
本会において、近年活動する会員が減少している状況で、継続が危ぶまれていることを知りました。現在は、学習支援や料理補助などが可能なサポーター、会員が少しずつ増えてきています。

3. 活動内容

1. ～助成時の活動について～【平成28年度：スタート支援型】



- ・ひきこもりの子どもを抱える家族や発達障害、個性の強い子どもを抱える家族を対象とした茶話会を開催
- ・コミュニティ形成の先進事例について、専門家を招き、原地区の住民を中心に参加者を募りセミナーを開催

2. ～助成から現在までの活動について～（令和3年12月現在）

- ◎茶話会（ピア・サポート…同じ境遇にある仲間同士の支え合い）同じ問題を抱える者同士で話し合い、以下困りごとについて情報共有をする場を企画
 - ・性について困っている当事者とサポート
 - ・働くことに困っている若者を持つ家族
 - ・発達障害や個性の強い子どもを持つ家族と当事者
- ◎食料配布会
生活困窮者やひとり親家庭に対して、食料品や物資の無償配布を定期的に行う



5. この活動を通じた効果や成果について

- ◎地域で起こった困りごとは地域で何とかしていく、という視点に気づくことができました。同時に、これまで行政に頼っていたことも、すべて行政にお願いするのは、少し違うのではないかと、意識も芽生えました。これは医療に頼っていた精神疾患の方が、人とつながることで回復していくことと似ていると思います。
- ◎現在生活困窮者に対して、定期的に食料配布会を行っています。生活保護の受給を受けている方々も作業を伝う場面もあります。もちろん食料をもらえるということもあるかもしれませんが、中には精神疾患を抱える方たちも、継続して仕事をするのが難しいが、社会の役に立ちたいと思っている人たちが一定数いることも確認できました。
- ◎人は自分より大変な人がいることを知ることで、その人の役に立ちたいという視点が働くものだと思います。例えば、これまでトラブルを起こすような方も、これまで出会わなかった様々な人と関わっていく、また支援活動を手伝うことで、新たに自分も動きだしていく人が出てきてもらえることが、活動の成果としてとらえています。

6. 今後の活動について

- ◎自助グループはおこまりごと（新たな課題）とおこまりごとが出会うことで、初めて形成されていくものだと考えています。これまで表に出てこなかったおこまりごとの数だけ自助グループが増えていくと思っているので、私たちは、そのおこまりごとに寄り添えるように、いわゆるアメーバ的に隙間に入り込んで【地域の生態系】を作っていきたいと思っています。
- ◎行政は制度にはまらなると課題に対応できないので、コロナ禍の今、押し寄せてくるあらゆるおこまりごとに対して、専門家や地域のサポーターと協力しながら、困っている人が声を上げられる地域になることを目指していきます。